

ガールズ&パンツァー 独眼車長の奮進 番外編

綾春

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この作品では、『ガールズ&パンツァー 独眼車長の奮進』で語られなかった舞台裏、他校の戦いを取り上げていく。

※本編を読まれた方でないと、殆ど理解できないと思います。

※更新ペースはあまり早くないと思います。

目次

ダスト・ウオー!

『砂塵の戦車隊』の戦いです!

攻略! 移動要塞です!

各校解説 車両・キャラクター紹介

設定集1 アウトバーン女子学院

設定集2 ライバル校

設定集3 ライバル校②

1

6

12

24

32

ダスト・ウォー！

『砂塵の戦車隊』の戦いです！

水族館の前に、3両の戦車が並んでいた。全体的に小さく纏められ、砲塔側部にとぐろを巻いた蛇が描かれた、二号車　チャーファイー軽戦車。サイズは小さいが砲は非常に長く、高速・高火力の三号車　M18改　スーパーヘルキャット。そして丸みを帯びたボディ、高い車高、長い砲を持つ隊長車　M4A1　ファイアフライ。

『砂塵の戦車隊』の異名を持つモニュメントバレー戦車隊は、戦闘前の整備に取り掛かっていた。

「三号車準備完了！いつでも行けるよ」

ヘルキャットのボディをばんばんと叩いたトルティヤー。キツめにウェーブした茶髪を揺らしてはにかんでみせた。試合前だということにこの余裕は、単に緊張感が無いだけだろう。

「二号車も大丈夫。全兵装チェック完了したよ」

地面につきそうなほど長い銀髪を揺らしてキャセロールが言う。口にはいつもどおりカン口飴があり、カラカラと音を立てる。

「隊長車チェック完了。いつでもいけます」

金髪のショートヘアと鼻まで上げたネックウォーマーが特徴のジャンバラヤ。非常に優れた砲手で、全国大会の3大砲手と比べても遜色ない戦闘力を持っている。

「よし、皆大丈夫ですね。じゃあ戦車に乗り込みましょう」

「Yes, Sir！」

小豆色のロングコート風パンツァー・ジャケットを身にまとったモニュメントバレー戦車隊員たちは、勇ましい合図と共に敬礼をした。

信号弾が空を照らす。冬季杯　一回戦第四試合の開戦の合図だ。

「Go ahead!」

隊長である私の合図と共に、3両の戦車が履帯を軋ませ進む。まずは手はず通り二号車が強行偵察のため前進していく。隊長車と三号車は援護できる距離で待機だ。

チャーフィーより三号車のヘルキャットの方が速度は速い。しかし二号車を斥候として使うのは、ヘルキャットが火力的主力になるからだ。M18改の90mm砲は非常に強力であり、敵の装甲を易易と貫通出来るだけの火力を誇る。しかしながら装甲は薄く、かすっただけで致命傷になる可能性もある。前線に出すには惜しいのだ。

「今回の敵は相模女子。強力な戦車を投入してきているはず..」

どんな流派にも縛られず、現代風ののびのびとしたスタイルを取る、純粋な日本の高校。太井社大学という大きなバックボーンを持ち、非常に潤沢な資金を持つ。故に強力な日本戦車を用いる事は想像に容易かった。

「とにかく気をつけて。いくら高速のチャーフィーでも、大戦末期の強力な戦車相手では分が悪いから」

「隊長が心配してくれるなんて、珍しいねえ」

自然と出た言葉だったが、普段こんな言葉をかけることはない。何か恥ずかしくなる。

「..と、とにかく。なんだか胸騒ぎがする。悪い予感が、的中しなければいいんだけど..」

しばらく進み、市街地に突入しようかというところで、二号車から通信が入る。

「敵発見!こちらはまだ発見されていないようなので、降車して偵察します!」

「了解。お願いします」

車両を晒すよりも生身の方が撃破される可能性が少ない。危険ではあるが、まだ交戦は始まっていない。賢明な判断と言える。

「えっと..五式中戦車、五式軽戦車ですね。もう1両はまだ見えません」

「..やっぱり。強力な戦車だね」

五式中戦車がどの砲を搭載しているかはわからないが、自動装填装置オートローダーを装備していたら非常に厄介だ。長身の75mm砲は貫徹力が高く、ファイアフライの正面装甲をいとも簡単に貫通する。それを3発連発されたら躲す事は難しい。

五式軽戦車は高い機動力を持つ軽戦車だ。砲性能も悪くないが、一番の特徴はその軽さだろう。10tを切る重量は非常に軽快なフットワークをもたらし、単純な速度や旋回性以外にも様々な恩恵をもたらす。

「もう1両はわかりませんか」

「… まだ見えませんね。もう少し進んで偵察しましょうか？」

「いえ。私たちが合流したら、前進して機動戦に持ち込みましょう」

「Roger!」

ファイアフライとヘルキャットが前進を再開する。市街地に進入し、裏道を最大速の半分ほどで進む。敵の位置はおおよそ掴んでいるため、この辺は安心して走行できる。

「このまま目撃地点に突っ込んで、一撃離脱を図ります。付いてきてください!」

「Ten-four!」

チャーファイと合流し、路地を右折。砲塔を左旋回しながら前進していく。

視界が開けて、こちらの3両の砲が火を噴く。しかし当然ながら行進間射撃の上狙いをつける時間が殆どなかったため、かすりもしなかった。敵の2両はこちらに追撃をかけてくる。

「三号車は路地右折、待伏せて!」

ヘルキャットが路地を右折し、敵が来るのを待つ。そして目の前を通り過ぎると同時に路地から飛び出し、射撃。狙いをつけたものの、敵の車長の判断だろうか。回避行動をとられてヒットはしなかった。「大回りに後退、B1地点へ」

市街地に突入する前に待機していた地点へヘルキャットを誘導する。敵の2両は追撃を中止したようで、再び元の位置へ戻っていった。つまり最初に発見した地点を起点に動いているわけだ。

「… だったら…」

ヘルキャットは大きく敵陣を回り込んで敵の尻を突くことになった。おそらくそれも警戒されているだろうが、この90mm砲の貫通力を生かしたアウトレンジからの攻撃なら、こちらを見られずに撃つことも可能かもしれない。

「さて。このくらいなら大丈夫じゃない？」

遙か遠く。敵車両が霞んで見えるほどの距離で、建造物の角に半分身を隠して敵を照準していた。道が少しだけ曲がっているため右側の建造物の影に隠れてしまうが、ギリギリ敵車両の後部が見えていた。

「照準、五式中戦車。フラッグから仕留めるよ」

遠距離からの身を隠しての狙撃。これが駆逐戦車の本領である。

「… ファイア！」

撃ち出された砲弾は、寸分の狂いもなく五式中戦車の後部を捉えていた。

刹那。当たるはずだった砲弾は、左に弾き飛ばされた。

「… な、何…!？」

オーブントップ砲塔と蓋の隙間から、啞然とした顔で照準していたはずの五式中戦車を見た。そこに五式中戦車の姿はなく、代わりに緑色の壁が出現していた。

街角から現れたその戦車は、まさしく異形。道路を軋ませ、舗装を剥離させながら、ゆっくりと前進してくる。

全体的に垂直に構成されたボディ。前方2基の砲塔には戦車砲、後方1基の砲塔には2門の機銃。車体中心に堂々と鎮座するのは、約15cmの大型榴弾砲。

『試製超重戦車 オイ車』。日本が生んだ怪物が、こちらを見据えていたのだった。

攻略！移動要塞です！

緑の壁は、回転砲塔に載せられた15cmの大型榴弾砲を狂い無くこちらに照準していた。

「全速後退ッ！」

その合図は九六式十五糎榴弾砲が火を吹くのとほぼ同時だった。旋回しつつ後退するヘルキャットの前方にあつた建造物に榴弾が直撃すると、建造物の中で信管が作動し起爆、爆音と業火が吹き出す。

「あつつい！えーこちら3号車！敵最後の1両は『大型伊号車』！注意されたし！オーバー！」

「オイ車…っ!?わ、分かりました」

通信はフラッグであるファイアフライに届いた。その一報を聞き、夏摘は困惑した。

「オイは前面200mm、側面110mm、後方150mm、砲塔200mmの超重装甲…なかなか抜けないだろうな…しかも護衛の2両もいる。どうするか…」

チャーフィーはまず戦力にならない。ヘルキャットはあの紙装甲を晒せばチリ車にぶち抜かれるだろう。だとしたらオイを殺れるのはファイアフライしかない。

「二号車は建造物を登って偵察を、三号車は速度を活かしてかく乱してください。くれぐれも殺られないように！」

「Roger!!」

二号車は先ほどオイ車の砲撃で破壊された商業施設併設の立体駐車場にやってきていた。その上りスロープにチャーフィーを止め、車両から降りて観察を開始する。

「敵発見。東から、チリ車、ケホ車、オイ車の順です。マリインタワー前広場にて密集していますね」

「なるほど、分かりましたありがとうございます…。…だったら、仕掛けていこう」

か。二号車の位置まで移動。大回りだね」

ファイアフライはB1地点から移動を開始する。マリンタワーの横を通ると敵に発見されてしまうため、大回りに海沿いを回っての移動となる。遠くにちらりと敵の姿が見えたが、こちらはまだ気づかれてはいないようだ。

大きく回り込んでチャーフィーと合流する。チャーフィーは崩れた建造物の破片を車両に乗せて偽装していたため、それに倣って隠蔽工作をした後スロープへ。

「どうするの？隊長」

「オイを倒すのは難しいけど、逆に言えばオイさえいなければそんなに難しいことじゃない。私たちがオイを仕留めれるかにかかってるね」

砲をスロープの塀から突き出す。俯角を取り、オイの薄い上面装甲を狙う。

「オイが向こうを向いた時に、砲塔後ろの天板を狙って」

「… 任せてください」

ジャンバラヤが覗くスコープの先には、的確にオイ車の上面が映し出されている。東を向くその瞬間まで、息を潜めて待つ。

「… 撃てー！」

合図と共に轟音。17ポンドの砲弾は寸分の狂いもなく上面装甲を照準していたが、突然オイ車が後退したために頑丈な砲塔後部に直撃した。さらに今の砲撃で気づかれてしまったため、位置を移動する必要がある。

「全速後退！西から脱出してください！」

必然的に1ブロック後退を余儀なくされる。ヘルキャットが敵陣に切り込んでかく乱してくれたおかげで逃げる時間を確保することができた。しかしながら、背には下関駅。これより後ろに市街地は無い。

「これ以上下がれない… こうなったら、乱戦に持ち込むしかない」

機動戦を得意とするモニュメントバレー。敵味方入り混じつての乱戦なら超重戦車でも食える自信があった。

「三号車は隊長車と一緒に切り込みます。まずはオイから狙ってください。二号車は私たちから少し後、乱戦になってから突撃、ケホ車を仕留めに行ってください」

「了解!!」

『ごちゃごちゃ作戦』開始です!」

作戦内容としては単純明快。機動戦でオイを撃破、ケホとチリを分断したら戦闘力に任せて各個撃破、といった感じだ。だがオイを撃破するのに代償ナシという訳にはいかないだろう。

次の交差点を右折したらマリインタワーだ。熱い機動戦が始まる。

「…行くよー!」

飛び出すと同時に3両の戦車がこちらに向き直る。チリ車の三連射を正面装甲で受け止めてオイに接近する。ヘルキャットとファイアフライで挟み込んで、側面に展開。しかしチリの次弾によってヘルキャットは移動を余儀なくされる。ファイラフライの17ポンド砲が火を吹くが、側面装甲にはじかれてしまう。

離脱し、再び接近。今度はチリ車が接近してきたため、ファイアフライで応戦する。履帯と履帯がぶつかり合い火花が散るほどの接近戦。その間にヘルキャットがオイを大立ち回りを繰り返すが、ケホがそれを妨害しようと懐に飛び込む。

「二号車!今!」

「ん。今行くよー!」

トルテイヤの呼び声に応え、チャーファイが先ほどの駐車場の塀を突き破って戦場に割り込む。ケホを体当たりでヘルキャットから

離し、戦場を離れるとケホは追いかける。作戦通り事が運んでいる。広場で4両の戦車が社交ダンスのように舞い踊る。火花が、コンクリートが、弾丸が飛び交うダンスホールは、鉄と油と排気の臭いでむせ返るような熱気を帯びていた。

三号車がオイから離れる。距離をとって再び接近。ドリフトしながらオイの側面に垂直に砲を突き立てようとする。

「行けるか…いや、行けっ！」

ドリフトで回り込もうというところで、オイの榴弾が地面をえぐる。爆風で軽量なヘルキャットは軽く浮き上がる。破片で転輪が破損しスピン。しかし回転しながらもしっかりと側面装甲を垂直に照準している。

「…ファイア！」

射撃音。オイ車の側面装甲を貫徹し、爆発音と共にエンジンから火が上がり、白旗が上がる。

「よしっ、次！」

「いや、次って、履帯が…」

戦場に戻ってきたケホ車の砲撃が貫徹、ヘルキャットも戦闘不能となった。

「三号車、ありがとう。これでなんとかなるかも」

「いいってことよ。後でアイス奢ってね」

「…考えておくよ」

そんな会話をしつつも、ファイアフライとチリ車は熱い機動戦の真っ最中だった。砲と砲が弾き合い、車長と車長がにらみ合う。装甲に弾丸があたっては弾き、明後日の方向で建造物に穴を穿つ。まるで猫のケンカのようにくるくると回り、ぶつけ合い、撃ち合う。

「…次で決めようか」

チャーファイは、追いかけてくるケホ車と交戦していた。フェリー乗り場の近くにある小さなコンテナターミナルでくると回り、隠れ、飛び出して撃つ。チリとファイアフライの戦闘が猫なら、さながらネズミだ。

コンテナの影からケホが現れ射撃。こちらは停止してそれを躲し、追撃。全速で回り込む頃にはそこにケホはいない。先程からこれの繰り返しなのだ。

「どうするか…このままやっても堂々巡りだけど、時間稼ぎをして増援を待つのも」

少し逡巡し、決心した。

「ここで仕留めよう。そこ入って」

指示した場所は、コンテナ。一箇所空いているコンテナがあつたのだ。ここで敵を待つ。

カタカタ。履帯の音が近づいてくる。

バリバリと地面に残った砂利を踏む音。

ケホのシルエットが視界に飛び込む。

「今よ、撃て！」

ケホの薄い装甲を貫き、白旗が上がった。

ファイアフライとチリ車は一旦距離を取ってにらみ合っていた。互いの間合いを計るためだ。

「… 前進!!」

合図と共にファイアフライが先に動いた。しっかりと助走をつけて、最高速度まで速度を上げる。チリ車も同じようにこちらに接近してきている。

近づく距離。音が、熱がこちらへ向かってくる。

「… 今ですー!」

それはチリ車の砲撃が始まるのと時を同じくして。ファイアフライはフェイントモーションから豪快にドリフトして旋回、チリは停止して半自動装填の砲弾を3連続で発射した。しかしドリフトで正面を向けているためそう簡単には抜けない。

ファイアフライに側面を取られまいとチリ車は車体を旋回させるが、ファイアフライの旋回の方が速い。側面に砲をゼロ距離で突き立てた。

発砲音。乾いた音と共に試合が決まる。

『五式中戦車、走行不能。よって、モニユメントバレー田園高校の勝利!』

各校解説 車両・キャラクター紹介 設定集1 アウトバーン女子学院

アウトバーン女子学院

ドイツの大企業の出資により建造された学園艦。本拠を山口県・萩市に置いており、母港は山口県・長門市の仙崎港としている。モデルになっているのは伊勢型航空戦艦。主砲部はアンテナとして利用している。

校風は基本的に日本らしいもので、学園艦内に『山口萩通信社』という大企業が存在することから、就職率も非常に高く、学校の資金も潤沢である。

校章は、学名の元となっている高規格道路『アウトバーン』をモチーフに、立体交差道路を描いたもの。どこことなくハーケンクロイツを彷彿とさせる。

制服は白のブラウスと灰色のブレザーに紺色のスカート。夏服はスカートが灰色になる。冬は赤のリボン、夏は水色のリボンが指定となっている。

学科は以下の通りである。

・普通科 ・機械工学科 ・電子工学科 ・被服科 ・自動車科
船舶科（操艦業務）

戦車道は部活動という形を取っており、そのために資金面では全国大会常連校などと比較すると劣る面がある。今までは歴代隊長が待伏せやトラップを得意とするため受身の試合を展開することが多かったが、夏紀が隊長に就任して以来、攻めの戦車道に転向しつつある。車両は基本的にドイツの車両を使用する。年度が変わってからは積極的に増車をしており、多国籍な戦車隊となっている。

《虎さんチーム》

識別マーク……デフォルメされた虎

三城 夏紀 隊長／車長

好きな戦車・M4シャーマン中戦車（過去の乗機） 好きな花・ミカ
ン

少し控えめな性格の少女。小さな流派『源流』を継承する数少ない人物の一人で、源流をベースとした独自の戦術を用いて戦う。中学三年生の時の戦車道大会中の事故により、妹と生き別れ、自身も右目の視力を完全に失っている。その為一時的に戦車道を離れていたが、妹との再会を果たすために再び戦車に乗ることを決意した。

指揮は結構むちゃぶりをすることが多い。しかしながらそのむちゃぶりにも結果がついてくるため、隊員からの信頼も厚い。体つきは貧相であるが、幼げな見た目は可愛らしさを感じる。髪型は茶髪のショートポニー。黒色の眼帯をつけている。

四条 華蘭 通信手

好きな戦車・10式戦車（統率の取れた戦闘がカッコイイ） 好きな
花・蘭

イギリス人と日本人のクォーターの少女。母が戦車道経験者で、母も通信手であった。情報をまとめることや、人を口車に乗せることが得意。思いやりの気持ちは強く、夏紀のことをよく気遣っている。戦車に関する知識は結構なもので、彼女自身戦車は好きである。将来の夢はアナウンサー。

若干ウエーブのかかった金髪のボブカットで、どこか気品を感じる佇まいである。身長は決して高くないものの、体つきがいい。

壱崎 幹葉 砲手

好きな戦車・ヤークトティーガー（砲が強い） 好きな花・藤

虎さんチームの中では唯一の一年生。戦車というよりは戦車道が好きで、非常に詳しい。ズバ抜けた射撃のセンスを持ち、行進間射撃はもちろん、砲塔や車体の揺動が収まる直前や旋回しながらの射撃でも命中させることが可能。体が弱く、集中力が長続きしないのが弱点。戦車道部には過保護な親の反対を押し切って入っており、成果を見せることで戦車道に対するマイナスイメージを払拭したいと考えている。

黒髪三つ編みのおさげで、赤い下ブチのメガネをかけている。体つきはいいが、制服やパンツァージャケットはダボ付いた物を着ているためあまり表面には出ていない。

二葉 琴音 装填手

好きな戦車・ティーガーII（強い） 好きな花・サザンカ

陽気な性格の少女。非常にテンションが高く、メンバーの士気高揚に一役買っている。また装填に関しては、速さよりも正確さが取り柄であり、車内が激しく揺れる源流の戦闘術にベストマッチである。一応砲手の心得があり、いざとなれば砲手をすることもできる。

髪はオレンジがかかった黒のセミロングで、手入れが行き届いていないため少し傷んでいる。だが容姿には無頓着であるため本人は全く気にしていない。顔立ちはよく整っている。

五樹 涼子 操縦手

好きな戦車・I号戦車C型（滅茶苦茶速い） 好きな花・黄水仙

フランクな性格の少女。戦車レーサーの家系に生まれ育っており、幼い頃から戦車の操縦を叩き込まれて育ってきた。国内リーグ最高峰の戦車レース『タンク・アタック』において優勝経験を持つ凄腕で、繊細なパンターをまるで手足のように扱うほどの技量を持つ。

毛先だけが金色の黒髪で、肌は少し褐色。体つきは非常によく、身長も高いためモデル体型である。制服の時には黒いタイツを履いている。

フラッグ車／隊長車：パンター中戦車

D型↓D型／G型↓D型改G型仕様

アウトバーンの戦車隊において、当初1両だけだった回転砲塔付きの戦車。アウトバーンの何でも屋的存在として、主力・遊撃・偵察など様々な任務をこなした。

当初はD型で様々な機械系に不安を抱えていた。冬季杯開幕と同時に不安のあった駆動系とエンジン周りを換装しD型／G型仕様となり、更にそこから一番の爆弾であった変速機を換装、外装もハッチ等以外はG型準拠となり、D型改G型仕様となった。愛称は『虎さんチーム』

M4A3E8 シャーマン・イージーエイト

冬季杯・決勝戦の直前に維新中学校から送られてきたもの。シャーマンの決定版的な性能であり、走ってよし、撃ってよし、守ってよしの好バランスが特徴。装甲厚が上がり、砲火力が上がり、サスペンション性能も上がっているため、全体的に他のシャーマンよりも性能は上である。

《クジラさんチーム》

識別マーク：潮を噴くクジラ

樹 葎花 車長

好きな戦車・Ⅲ号突撃砲（乗機よりスタイリッシュ） 好きな花・ローズマリー

生徒会書記の少女。頭は冴えるが面倒くさがりで適当。戦術は先代隊長譲りの待伏せを得意とし、陣地転換を繰り返しての弱点狙撃を好む。

髪はショートヘアのぱつっん。優しい顔立ち。

樹本 花夏 砲手／部長

好きな戦車・TOGGⅡ（長くて勇ましいところが好き） 好きな花・カメラリア

生徒会長の少女。『ザ・生徒会長』と言って差し支えないほど生徒会長のテンプレートのような人物。戦車部の部長で、生徒会権限で学校運営陣に圧力をかけることでコストのかかる戦車部に多めの部費が回るようにしていた。非常に精密な射撃をし、照準速度はあまり速くないがなかなか外すことはない。

長い黒髪をポニーに結んでいる。体つきはかなり豊満であり、羨望の的である。

Ⅳ号突撃砲

↓Ⅳ号突撃砲（最後期仕様）

固定戦闘室を搭載し、非常に低い背格好が特徴の自走砲。装甲はあまり頑丈とは言えないが、車体を傾ける緊急被弾経始を用いることで数倍の防御性能を持たせていた。

非常に優れた砲性能を持ち、その低さと相まって待伏せに適している。またベースとなっているⅣ号戦車の優れた機動性を譲り受けて

いるため、脚も結構速い。

冬季杯準決勝よりIV号突撃砲の後期生産型仕様へと姿を変え、現地改装で付けられたコンクリート装甲や側面のシウルツェン、足回りの後期型へのスワップなどが行われている。

IV号戦車J型

IV号突撃砲（最後期仕様）の車台を仕様し、回転砲塔を搭載しIV号戦車の形に戻した、逆ドイツ式カスタムで作られたもの。側面には金網でできたシウルツェン、トーマ・シールドを装備しており、防御性能はほぼIV号突撃砲の時と同じである。砲もIV号突撃砲の時と同じであり、車高が高くなった代わりに回転砲塔を手に入れたという具合である。

《山猫さんチーム》

識別マーク… 猫っぽい虎な感じの山猫

松岡 寿璃 車長

好きな戦車・カヴェナントー巡航戦車（熱血（物理）だから） 好きな花・梅

軟式テニス部部長の少女。軟式テニス部は今部員不足と指導員の不在により活動休止中であり、その間の特訓的な意味合いで戦車道をしている。熱血で、根性や根気といった精神論が好き。非常に博打打ちであり、無謀な戦術を展開しようとする場合もある。

黒のショートカットの前髪を、流れ星を象ったヘアピンでまとめている。少年的な体つき。

沢松 紀奈子 通信手／装填手

好きな戦車・チャーチルI歩兵戦車（長くてどっしりしていて格好良い）好きな花・桃

軟式テニス部のマネージャー。そのせいか周りに気を配ることが得意であり、メンバーの体調管理等はお手の物である。非常に面倒見のいい性格で、頭も冴えるため実質山猫さんチームの中核である。

彼女の特筆すべきポイントはその豊満な体である。学内でもトップクラスというよりダントツでトップのナイスバディである。髪は黒のセミロングのみあげを三つ編みにしている。

10・5cm突撃榴弾砲42型搭載Ⅲ号突撃砲（通称10突）

Ⅲ号突撃砲の砲を10・5cm榴弾砲に換装したものである。対歩兵戦闘においては非常に有用な兵器であったが、戦車道では敵の装甲を貫くことのできない榴弾は非常に使い勝手が悪いもので、基本的にアシストとして使用する予定だった。

VK 16・02 レオパルト軽戦車

Ⅱ号戦車の偵察用発展系として開発された軽戦車。実際に完成した車両はないが、部品が揃っていたために組立が可能であり、戦車同連盟の許可を得て戦車道に投入された。

パンターに非常に似たデザインをしており、良好な被弾経始を取り入れた装甲と、パンター譲りの大型の足回りが特徴である。その為走行性能は非常に高く、偵察に向いた車両であると言える。搭載している5cm砲もこのクラスの車両としては高威力な方である。

《道場破りチーム1 クロムウエル》

相島 舞香 車長

好きな戦車・クロムウエル巡航戦車（乗機）

『見島流』を継承する少女。萩市に浮かぶ離島、見島において発展した見島流は、島の起伏や豊かな森林、岩浜などを有効に利用する、言うなれば「環境を味方に付ける」戦術を得意とする流派である。

見島流は数ある流派の中でも非常にマイナーで、彼女は度々見島流を虐げられてきた。そんな評価を覆すために、見島流の誇りを示すために、自らよりも強力な敵に立ち向かってきた。

性格は少し気性が荒く、口調も汚い。しかし根は優しく、思いやりを持った少女である。

金髪のツインテールで、かなり長い。身長は高いが胸は薄い。

クロムウエル巡航戦車

イギリス巡航戦車の系譜において、最も成功した車両であろう。高い機動力とそれなりの火力を得て、『大戦中最速』の称号を欲しいままにした。

その特徴はなんといってもその速さ。それでいて装甲厚もなかなかのものであり、軽戦車というよりは中戦車に部類できる。クリステイラー式の足回りは地形に追従し、良好な加速、旋回性を発揮する。

本車には排気口カバーが取り付けられており、スポーティなフォルムを演出している。

《道場破りチーム2 クルセイダー》

大島 海荷 車長

『見島流』門下生の少女。舞花と同じ気持ちを抱いているが、彼女はより温和に力を示す方法を考えている。舞花の激しさのカウンターバランスのように優しく、おっとりとした性格だが、内に秘める黒い性格は誰も知らない。

明るい栗色のショートヘアで、前髪が左側だけ長い。試合中はヘアピンでかき上げている。

クルセイダー巡航戦車

イギリス巡航戦車の中では成功の部類に入る車両。かつての巡航戦車よりも速く、強い戦車になっている。まるで鉄板を貼り合わせたようなデザインで、性能もまるでハリボテかのような紙装甲であった。しかしリミッター解除で60 km/hという快速は驚異的である。整備の行き届いている現代の車両においてリミッター解除そのものがエンジンにダメージを与えることは殆どなく、本車はほぼ常時リミッターを解除して運用している。

《美術部チーム ケヌ車》

巖島 花凜 車長／装填手／砲手

美術部員の一部が『新たな刺激による新境地の開拓』を目指して戦車道部と兼部することに。そのうちの一人が彼女であり、美術部の部長でもある。チームの新たな目として活躍が期待できるケヌ車だけあって、責任も人一倍である。その為彼女は非常に張り切っている。

髪型は茶髪のセミロング。赤色のベレー帽を被っている

四式軽戦車 ケヌ

日本軽戦車の中でも現存している車両の中では最新の車両である。三式軽戦車ケリが砲塔内スペースの関係上、非常に取り回しにくい車両であったため、ケリ車の砲塔を、新砲塔への換装で余剰となっていた九七式中戦車チハの砲塔に換装したものである。本車はループアンテナの取り付けられたタイプである。高い機動力を持つ他、本車には特殊な成形炸薬弾『夕弾』が用意されている。これは戦車の撃破より乗員への損害を狙ったものであったが、戦車道においては距離にかかわらず高い貫通力を発揮する砲弾となっている。

《自動車科チーム》

瀬玲奈 車長

自動車科の中でも戦車整備を専攻している『戦車専攻コース』のリーダーを務める少女。クルマをこよなく愛している。好きなものはもっぱらデューセル車とミニバン。

重戦車乗りらしくどっしりとした指揮を取る。性格は非常にマイペースである。髪型は黒のポニーテール。

飛鳥 砲手

戦車専攻コースの少女。命中精度こそそれなりであるが、その本質が砲手でなく整備士としての高いスキルにある。戦車道部の車両チューニングの指揮をとったのは彼女であるし、プラン立案や細部の煮詰めは彼女の仕事であった。

性格は非常に軽いノリと適当さを持ったものである。髪型は茶髪のベリーショート。

T29重戦車

ドイツの猛獣、特にティーガーIIに対抗するべく、パーシングをベースに開発された重戦車である。その特徴はなんといっても200mmオーバーの上に強く傾斜している、やりすぎなレベルの砲塔防御力にある。それは重駆逐戦車の砲撃にも耐えうるほどの強力である。砲は長砲身の105mm砲で、高い火力を誇る。その性能は総合的に見てティーガーIIを凌駕するものだったが、量産はされていない。砲塔はステレオスコープの飛び出していない、丸型のもの。

《被服科チーム》

羽織 車長／砲手

被服科・デザイナークースの少女。パンツァージャケットのデザイナーも彼女である。彼女のおしとやかな性格と同じく戦法も非常に控えめであるが、その控えめさが生存性を上げているとも言える。

性格は前述のとおりおとなしく、おしとやか。髪型は赤みがかつた黒のロングヘアを腰の位置で1本にまとめている。

T-34-57駆逐戦車

T-34に57mm砲 ZiS-4を搭載した対戦車戦闘用モデル。ピロシキ型の小さな砲塔に、76mm砲よりも長い57mm砲を搭載したアンバランスな外見は、少々シニールである。

しかしながら戦闘力は本物で、良好な機動力と高い貫通能力を誇る。T-34と同じボディのため強い傾斜が生む防御力も健在である。しかし砲塔は旧型であるため防御力に欠け、車内も狭く装填速度に制約がかかる。

設定集2 ライバル校

モニュメントバレー田園高校

アメリカ合衆国のある州からの支援を受け建造された学園艦。甲板上は荒野や砂漠が多いが、一方で名前の通り農業が盛んな学校でもあり、次世代農業の研究を行う施設を持っている。学園艦はヨークタウン級空母を参考としており、甲板上には福岡県・久留米市を模した街がある。本拠は福岡県・久留米市、母港は福岡県・博多市の博多港。学科は以下の通りである。

校章はモニュメントバレーを背景に稲を描いたもの。

制服はブラウンベースのセーラー服。冬服も同じくである。リボンの色は夏が赤、冬が灰色である。

・ 農学科 ・ 農化学科 ・ 技術科 ・ 産業技術科 ・ 船舶科（操艦業務）

戦車道はアウトバーンと同じく部活動として存在している。支援金を受け取っている関係上アメリカ戦車のみで構成されており、元から高機動戦車を中心にチームを編成していたため、源流に非常に適したチームとなっている。

《一号車》

四十伽 夏摘 隊長／車長

好きな戦車・M3中戦車リバー（過去の乗機） 好きな花・柚子

夏紀の双子の妹。四十伽 畔に拾われたことで名前を変え、別人として戦車道をしていた。記憶の大部分を失っており、作中で少しずつ記憶を取り戻している。戦術は体に染み付いた源流を用い、その純度は夏紀より上。戦闘スタイルは非常にアグレッシブで攻撃的。しかしながらアウトレンジからの射撃など控えめな一面も持つ。また、作

戦指揮は基本的に自由放任型である。性格はドライだが暖かい。仲間思いで義理堅い。

髪型は黒つぽい茶髪のセミロング。体つきは姉譲りの貧相なもので、双子故によく似ている。

ジャンバラヤ 砲手

好きな戦車・特になし（興味なし） 好きな花・花より草が好き

表情が伺えない、謎めいた少女。口数も非常に少なく、感情を殆ど読み取ることができない。しかしながら砲撃の腕はかなりのもので、全国大会の三強と肩を並べるほど。

金髪のショートヘアで、いつも鼻までネックウオーマーをしている。つり目がち。

M4 シャーマン ファイアフライ

M4 シャーマン中戦車に17ポンド砲を搭載した、高い火力が持ち味の中戦車。シャーマンの中でも初期型のA1をベースとしているため、走行性能はあまり高くないものの、信頼性と安定性はバツグンである。また17ポンド砲の火力は冬季杯でも随一のレベルであり、高い貫通力と長い射程を武器に、ロングレンジの射撃戦を得意とする。

《二号車》

キャセロール 車長／副隊長

好きな戦車・M24 軽戦車 チャーフィー 好きな花・しだれ桜

夏摘の心を支える副隊長の少女。気配りが効き、隊長の右腕として

よく共に行動している。地面に着かんばかりに長い銀髪が特徴で、好物はカンロ飴である。戦法は大胆不敵。格上戦車とでも大胆にタイマンを張る。

M24 軽戦車 チャーフィー

アメリカ軽戦車の決定版。高い火力と足回り、軽量なボディに高馬力エンジンと、申し分ないバランスを持った強力な戦車である。またアメリカらしく非常に扱いやすい性能にまとまっており、様々な戦局に柔軟に対応するだけの能力を持っている。モニユメントバレーはチャーフィーを2両保有しているため、間違えないようこちらにはとぐろをまいた蛇が描かれている。

《三号車》

トルテイヤ 車長

好きな戦車・M36 ジャクソン 好きな花・スズラン

陽気でテンションの高い少女。ノリがよく、ムードメーカーとしても一役買っている。夏摘を見て学んだ「源流もどき」を自身の戦術として使用する。

M18改 スーパーヘルキャット

M18ヘルキャットに、蓋付きのM36ジャクソン用砲塔を搭載したもの。蓋があるため戦車道に使用できる。装甲はペラペラであるが、高い火力と機動力を持ち、砲は従来のM18より火力の高い90mm砲である。

私立ブリテン高校

イギリスの流れを汲む共学校。戦車道においては強豪ではあるが独特の思想に囚われており、それを知る相手校に弱点を突かれて撃破されることが多い。それ故になかなか大会等では勝利できず、名を挙げることが出来なかった。

今作の『冬季杯』においてもイギリス歩兵戦車を用いて参戦するが、三叉戦であることを踏まえると決して有利とは言えない選択であることは、言うまでもないだろう。学園艦はイラストリアス級空母をもとにした中規模なもの。イギリスと日本のハーフのような校風を持つている。本拠地は鹿児島県指宿市。

校章はイギリス国旗によく似たユニオンフラッグの中心に、『B・H・C』と描かれたもの。

保有戦車は歩兵戦車のみで、聖グロリアーナ女学院とは違い、装甲頼みの突撃を好む。実際黒森峰やプラウダのような大経口主砲の重戦車を多数運用する高校が相手でない限りそれなりに有効な戦略であるとも言える

- ・ブラックプリンス歩兵戦車×2
- ・バレンタイン歩兵戦車×3
- ・マチルダⅡ歩兵戦車×2

《隊長車》

ヴィヴィアン 車長／隊長 三年生

いつも眠そうにしているブリテン校の隊長。とてもだらしないが礼儀や指揮はまとも。

年中睡眠欲と格闘しており、彼女の目を覚ますのは熱い戦車戦のみ。

ゆるやかにウェーブした銀髪で、目は赤。だらしない体つき。

バーバリー 砲手 二年生

ヴィヴィアンを支える隊長車の砲手。試合中の射撃回数と命中弾の数の比率が極めて高いが、これは行進間射撃が得意な彼女と突撃戦術がマッチした結果。銀髪のツインテール。

ブラックプリンス歩兵戦車

重装甲の歩兵戦車であるチャーチルに車幅の延長と装甲厚の向上を行い、新規砲塔への換装、そして念願の17ポンド砲の装備を行ったもの。鈍足は変わらないが、火力が向上したことにより戦闘能力はかなり向上している。また本車はトランスミッションにひと工夫されており、減速比が大きくなっている。それに伴い加速力が上昇したが、最高速は落ち込んでいる。

《一号車・二号車》

チャーチル歩兵戦車

イギリスで開発され、時代遅れの思想ながら終戦まで第一線で運用され続けた歩兵戦車。当時では分厚い装甲と長い履帯が特徴であり、塹壕などを越えるために長大なボディが与えられている。大柄かつ鈍足であるが火力は今ひとつで、戦車道ではあまり強い部類とは言い難い。

吉森工業高等学校

日本生まれの日本的な工業高校。戦車道と密接な関係を持ち、プロ戦車道チームのメカニックや戦車ドライバーなどに多くの卒業生を輩出している。

主に『速くて強いクルマ』を用いる。運転技術に限れば強豪をも上回るウデを見せるが、砲撃や指揮などはイマイチであり、いつも機動力のみが空回りしている。しかし『冬季杯』に関して言えばそれも有利に働く可能性を大いに持っている。

学園艦は空母赤城の三段甲板仕様を模しており、中段及び下段の甲板を丸々サーキットとして用いている。また、街の面積の半分を工場が占めており、工業船の側面も持つ。男勝りな校風。本拠は愛知県豊田市だが、寄港するのはいつも名古屋港であることから、実質的な拠点は名古屋と言える。

校章は正円にチェッカーフラッグと同じモノクロ模様を敷き詰め、その円を囲むように描かれた円に『G・W・T・H・S』と書かれている。(グッドウッド・フェスティバルオブスピードのパ〇リ)

保有戦車は実習車を含めれば多岐に渡るが、ここでは戦車道に使用する車両のみを列挙していく。

- ・センチュリオン巡航戦車
- ・BT-7快速戦車
- ・パンター中戦車 ガスタービン試験車

《隊長車》

マクラレーン 車長／隊長 三年生

ノリが良く、士気高揚の上手い隊長。名門戦車レーサーの家系に生まれ育ち、戦車の操縦を叩き込まれて育つが、高校進学の際に操縦手より車長の方が向いていることに気がつき、車長へと転換。

オレンジの長い髪を耳の上でピンで留めている。顔つきはしやきつとした男性的な顔。

ロータス 操縦手 二年生

マクラレーンと共に悪乗りしながらも、きちんと操縦はする操縦手。普段はまともに走るが、テンションが上がったりピンチになったりすると、ドリフト走行をする。マクラレーンのことを『姐さん』と呼ぶ。

センチュリオン重巡航戦車

実質はその試作型のA41重巡航戦車である。大戦末期に作られ、今でも中東で活躍する傑作戦車である。その性能は『大洗紛争』で見せつけた通り。本車は吉森工業の整備部隊によるチューンナップが加えられており、旋回性能が通常のものより少々向上している。

《副隊長車》

ケータハム 車長／副隊長 二年生

ガスタービンパンターの車長を任された優秀な車長。突飛なマクラレーンの戦略に相反する、安定感のある戦略を好む。この頭のおかしいパンターを手懐けることで精一杯であり、副隊長としてはほぼ機

能していない。

パンター中戦車 ガスタービン試験車

パンター中戦車をベースに、ガスタービン搭載の試験を行った際のもの。低回転時には虫の息ほどのトルクしか発生しないものの、スイトスポットにハマれば1200馬力級の大馬力を発生するモンスター。それに対応する優秀な変速機も与えられた。車体後部に大きく空いた冷却用の開口部が大きな弱点となった。ベースとなつているのはパンターD型。後部開口部以外はそのものである。

《三号車》

BT-7快速戦車

後のT-34へと続くBTの系譜の最終地点。その特徴はなんといつても機動力。装輪走行時には70km/hを記録した。本車は吉森高校のハイチューンにより100km/hに迫ろうかという速度を発揮する。

設定集3 ライバル校②

私立 試錐学園

広島県は呉に本拠を置く学校。偏差値は非常に高く、難関校として知られる。主に土木と工業系の学科を持ち、優秀な設計技師や職人たちは、学園艦建造や戦車運用の上で必要不可欠となる道路補強工事等で必須になる事から、近年では求人が多く、高い就職率を誇る。学園艦は工作艦『明石』を象った大型のもので、地盤調査等のために国に借り上げられることが多々ある。雰囲気は少し治安の悪い工業地帯のように、油と錆にまみれている。中心市街地ですら活気はあまりなく、暗い雰囲気漂っている。校章はボーリング機で杭を打つようなシルエツト。

学科は以下の通り。

・土木建築科 ・土木設計科 ・工業設計科 ・工業科 ・船舶科

戦車道においては地域では無敗に近い成績を収めているが、過去の連盟との軋轢から戦車道連盟には加入しておらず、戦闘は練習試合やエキシビジョンに限定している。今年度の冬季杯出場を目論んでいる学校の一つである。その戦術は昔から変わらぬ浸透突破である。重装甲の重駆逐戦車部隊を主戦力とし、開けた穴から遊撃隊を突入させることで敵陣を前と後ろからかき乱すスタイルは、『分かっているも防げない』との評価を受けている。

・ T-44-100 中戦車

・ パンター中戦車G型

・ コメツト巡航戦車

・ T-34-85 中戦車

・ M5 軽戦車

・ ティーガーII 重戦車（ポルシエ砲塔）

- ・ヤークトテイガー駆逐戦車
- ・エレファント重駆逐戦車
- ・ヤークトパンター駆逐戦車
- ・E-100超重戦車（マウス砲塔）

隊長車 T-44-100

浸透突破の要となる遊撃部隊の指揮と共に、作戦全体の指揮を取る隊長車。その機動力と火力、装甲を活かして敵陣に切り込み、防衛ラインをボロボロに食い荒らすのが仕事。

パイル（越前 カンナ） 隊長／車長

夏紀の中学校時代のライバルで、夏紀の目を潰した張本人である。あの時負けたことを今でも根に持っている反面、彼女に怪我をさせたことを申し訳なく思う心と、謝ることを恥じるプライドのせめぎあいには悩まされている。

プライドが高く、一度決めたことは曲げないまっすぐな少女。しかしながら非常にナイーブな心の持ち主でもあり、自らのプライドや信念に心が折れそうになることが多々ある。

黒髪のツインテールに青ブチのメガネをかけている。見た目は戦練専の紀伊によく似ているが、彼女はパイルの妹である。普段はお嬢様言葉で話すが、ボロが出ると山口弁になる。

副隊長車 テイガーII（ポルシェ砲塔）

主力部隊に柔軟性を持たせるために今年度から投入した重戦車。ヘンシエル砲塔に比べて砲塔が弱いのが弱点であるが、それでも十分な装甲を持つ。砲塔のない主力部隊の護衛と、融通の聞かない部隊の指となることが任務である。

ローラ 副隊長／車長

1年生ながら副隊長に抜擢された天才少女。本来は整備担当であり、ティーガーIIポルシエ砲塔及びE-100超重戦車は彼女の主導で組み上げ作業が行われた。大人しい性格かつ非常に従順。金髪にほんのりと褐色の肌。

バラトン水産技術学院

母港を持たず、様々な港に寄港しながら長期的な航海を繰り返す海洋技術艦の側面を持つ学校である。その母体はハンガリーで、内陸国であるハンガリーが海洋技術に興味を持ち、依頼を受けた企業が、廃艦となり解体待ちであった学園艦を買い取って事業を始めたことにルーツを持つ。運用資金は海産物加工や海洋技術の研究で捻出しており、いつもカツカツである。所在は東京都になっているが、母港や施設を持たないため書類上の所在地である。

学園艦の雰囲気は非常に陽気で、海産物をつまみに『大人の白ぶどうジュース』を嗜むことが多いようである。学園艦は潜水母艦 剣崎をモデルにした小型のもの。校章は船とオール、歯車をモチーフにしたもの。

学科は以下の通り。

・水産技術科 ・海洋技術科 ・船舶科

戦車道は近年になってアピールのために始めた。そのため戦術は

未だに固まっていけない稚拙なもので、押されるとすぐにボロが出る。隊長が必死に創意工夫をしているが、まだ上手くいつてはいない模様。

- ・トウラインⅢ重戦車（シウルツェンレス）
- ・トウラインⅡ重戦車（シウルツェン有り）
- ・ズリーニイⅠ 75 m 突撃砲
- ・ズリーニイⅡ突撃砲
- ・トルデイⅡ a 軽戦車
- ・トルデイⅢ軽戦車
- ・タイガーⅠ重戦車
- ・Ⅳ号戦車H型（砲塔のみシウルツェン有り）
- ・Ⅲ号戦車J型
- ・Ⅲ号突撃砲
- ・35 M アンサルド軽戦車

隊長車 トウラインⅢ重戦車

ハンガリーのトウライン中戦車の最終系。高火力の長砲身75 m 砲や90 m クラスの装甲など、中戦車ベースの車両とは思えぬ性能を持つ。機動性も悪くなく、弱点といえればリベット止めであることくらい。本来であればシウルツェンが取り付けられるが、この車両ではシウルツェンの装備されていない形態になっている。

北島 千尋 隊長／車長

バラトン水産の隊長。日焼けした肌とショートの髪から察せるように、元気印な少女である。戦車道は高校に入ってから初めて経験し、無知故に何度もミスをしたが、その度に学び、周りの学校の車長程度の能力は得た。しかしまだまだ技術は不足しており、他校から『宝の持ち腐れ』と言われることが多々ある。

褐色の肌に黒のショートヘア。身長はそれなりで比較的筋肉質で

ある。カツオ漁を専門に勉強している。

副隊長車 タイガー重戦車

言わずもがな、非常に強力な重戦車である。バラトン校の最高戦力であり、戦術の要。基本的に高速戦車で陽動し、そこを確実に仕留めるスタイルを取る。

瀬戸 優奈 副隊長／車長

バラトンの副隊長。千尋とは対照的に冷静沈着、白い肌とロングの茶髪が特徴である。戦車道は小学生の頃に少しかじっただけであった。千尋のことをよく知っており、親友関係である。

雪のような肌に茶髪のロングヘア。その綺麗な肌とは対照的に、海洋技術の中でも機械系に精通するエリートである。